**国際教室在籍生徒の進路にかかわるアンケート調査　調査票**

締切り　2022年3月31日（木）

送付先　FAX：045-620-0025 ／ E-mail：tabunka@kifjp.org（公益財団法人かながわ国際交流財団）

**2022年3月（2021／令和３年度）の国際教室卒業生について、次の質問にお答えください。**

**１　教育委員会名をご記入ください。川崎市立・横浜市立中学校の場合は学校名をご記入ください。**

|  |  |
| --- | --- |
| 教育委員会名または学校名 |  |
| ご担当者様氏名 | （ふりがな） |
|  |
| TEL |  |
| FAX |  |
| E-mail |  |

|  |
| --- |
| 校 |

**2　貴市町村にある国際教室設置中学校の数を教えてください。川崎市立・横浜市立中学校の方は設問3へお進みください。**

**3　貴市町村の国際教室設置中学校の2022年3月（2021／令和３年度）の国際教室卒業生について、次表に人数をお答えください。川崎市立・横浜市立中学校の方は、貴校の2022年3月（2021／令和３年度）の国際教室卒業生についてお答えください。**

（１）最終的な進路

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | **在県枠該当生徒数** | **在県枠に****該当しない生徒数****(ウ)** | **合計****(ア+イ＋ウ)** |
| **滞日３年****以内 (ア)** | **滞日４～６年****以内 (イ)** |
| 特別枠 | **在県外国人等特別募集（全日制）** | 名 | 名 |  | **名** |
| **在県外国人等特別募集（定時制）** | 名 | 名 |  | **名** |
| **海外帰国生徒特別募集** | 名 | 名 | 名 | **名** |
| 一般受検 | **公立全日制** | ５号様式の利用あり | 名 | 名 | 名 | **名** |
| ５号様式の利用なし | 名 | 名 | 名 | **名** |
| **公立定時制** | ５号様式の利用あり | 名 | 名 | 名 | **名** |
| ５号様式の利用なし | 名 | 名 | 名 | **名** |
| **公立通信制** | ５号様式の利用あり | 名 | 名 | 名 | **名** |
| ５号様式の利用なし | 名 | 名 | 名 | **名** |
| **私立高校** | 名 | 名 | 名 | **名** |
| **就職** | 名 | 名 | 名 | **名** |
| **高校浪人** | 名 | 名 | 名 | **名** |
| **その他・不明** | 名 | 名 | 名 | **名** |
| **合計** | **名** | **名** | **名** | **名** |

**在県外国人等特別募集（在県枠）とは…**

神奈川県の公立高等学校入学者選抜制度では、「在県外国人等特別募集」を実施している。志願資格は次の通り。

受検する年の２月１日現在、外国籍または、日本国籍を取得して６年以内で、日本での在留期間が通算６年以内（小学校入学前の在留期間を除く）の人。受検科目は、英語、国語、数学の3科目で、他に面接がある。問題は一般募集と同じだが、問題文の漢字にふりがなが付いている。詳しくは「神奈川県の『公立高校入学のためのガイドブック』」（多言語）がわかりやすい。神奈川県教育委員会ホームページよりダウンロードが可能。

**第５号様式とは…**

高校受検の際に、問題文へのルビふりなどの配慮を申請するための文書の様式の番号で、正式名称は、「海外からの移住者等を保護者とする志願者の受検方法等申請書」。原則として、受検する年の2月１日現在、海外から移住してきて６年以内の人が一般募集で受検する場合に申請できる。申請できる特別な受検方法は①学力検査問題等の問題文にルビ（漢字にふりがな）をつけること、②学力検査等の時間の延長（最長1.5倍）、③面接等の時、わかりやすい言葉でゆっくり話すこと。ただし、在県外国人等特別募集では①と③が適用されるため、第5号様式の申請には該当しない。

（２）在県枠を利用しないで進学した生徒についてその理由を以下から選んでください。（複数回答可）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 滞日３年以内 | 滞日４～６年以内 |  |
| □ | □ | 通学可能な地域に在県枠設置校がなかったから |
| □ | □ | 生徒が在県枠の利用を望まず、一般受検を望んだから |
| □ | □ | 保護者が在県枠の利用を望まず、一般受検を望んだから |
| □ | □ | 一般受検でも合格できる可能性が高かったから |
| □ | □ | 希望する在県枠設置校は人気が高いことが予想され、合格できないと考えたから |
| □ | □ | 一般受検の方が、志望校の選択肢が広いから（校風、部活、コース等々） |
| □ | □ | 在県枠の高校で適切な支援が受けられるか確認できなかったから |
| □ | □ | 在県枠の条件の変更および新設について知らなかったから |
| □ | □ | その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |

（３）「第５号様式」の条件に該当するが、利用しないで進学した生徒について、その理由を以下から選んでください。（複数回答可）

□生徒が「第５号様式」の利用を望まなかったから

□保護者が「第５号様式」の利用を望まなかったから

□「第５号様式」の利用にメリットが大きくないと判断したから

　□「第５号様式」を利用しなくても合格できる可能性が高かったから

□「第５号様式」について知らなかったから

□その他および補足

**４　国際教室での進路支援についてご回答ください。**

（１）2022年入試からの在県枠の条件と設置校の拡大について（複数回答可）

□在県枠の条件に該当しない生徒がまだ多い　　□在県枠の定員数がまだ足りない

□通学可能な地域に在県枠設置校がまだ少ない □中学校教員に在県枠の制度変更が知られていない

□高校教員に在県枠の条件の変更について知られておらず、正しい対応をしてもらえなかった

□滞日年数６年を超えているなど、在県枠に該当しないが日本語・教科学習に困難を抱える生徒がいる

□在県枠の高校でどのような支援（日本語指導や進路支援）があるか分からない

□その他

（２）在県枠の条件と設置校の拡大について感じていることを自由にお書きください。

（３）進路支援全般について（複数回答可）

□保護者に対する情報提供が難しい　　　　　　　　　□第５号様式の活用方法が周知されていない

□全日制を希望していても定時制しか選択肢がない 　　□経済的理由で私立高校に進学できない

□その他

（４）入学後支援について（複数回答可）

□合格後に必要な書類が多く、手続きが難しい □学習についていけるか心配である

□生徒・保護者へ通訳などの支援が必要である

□文化の違いなどから学校生活になじめるか心配である

□その他

**5　“外国につながりのある子ども”の進路保障などに関して、ご意見がありましたらご記入ください。**

アンケート調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒、FAXまたはE-mailにてご返送ください。

公益財団法人かながわ国際交流財団　多文化共生グループ

TEL：045-620-4466　FAX：045-620-0025　E-mail：tabunka@kifjp.org